

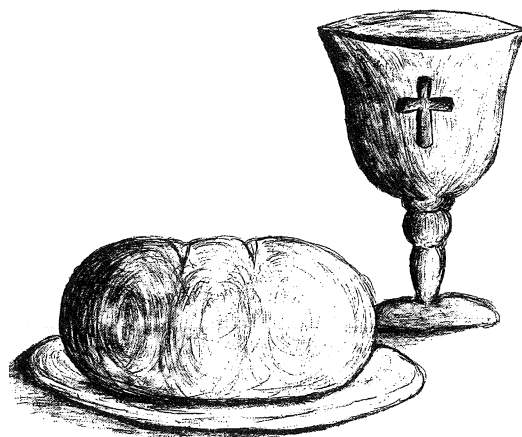
# 7月5日(日)

聖書  
聖句

使徒 2・37～47  
一同はひたすら、使徒たちの教を守り、  
信徒の交わりをなし、共にパンをさき、  
祈をしていた。 42節

5月31日は今年のペンテコステの記念日でした。初めてこの地上に聖霊が降った記念日、そしてこの地上に教会が誕生した記念日でした！その日に洗礼を受けて心の誕生を記念した人もいたでしょうね。心からおめでとう！  
どういう風に教会が誕生したのか、教会生活について？というところをこの週は一緒に学びます。初めの教会員たちは「ひたすら」そう、一生けん命、神様の教を守り、共に交わり、聖餐を受け、お祈りしました。教会学校に励みましょう！

いのちの祈り  
天のお父様、この地上に不思議で素晴らしい教会を与えてくださり感謝します。これからも励んで教会に行きます。



聖書

使徒 2・37～47

タイトル

教会 誕生

暗唱聖句

一同はひたすら、使徒たちの教を守り、信徒の交わりをなし、共にパンをさき、祈をしていた。

使徒 2・42

目標

教会生活に励もう。

# 7月7日(火)

聖書  
聖句

使徒 2・40～41  
ペテロは、ほかになお多くの言葉であかしをなし、人々に「この曲った時代から救われよ」と言って勧めた。40節

あの弱虫だったペテロさんがねえ…と、こでは感心します。聖霊に満たされて、人々に勧めたのです。とても力ある勧めだったのです。何しろ、勧められて、その言葉を受け入れてバプテスマ(洗礼)を受けて、仲間に加わった人たちが三千人もあったのですから！すごい数でした。ペテロの勧めの言葉とは「この曲った時代から救われよ」でした。今も私たちの住む社会はいかに曲った恐ろしい醜い社会でしょう。救われなければなりません。

いのちの祈り  
天のお父様、罪に満ち満ちたこの世から救われる道はただイエス様の十字架です。人々に勧める力をください。

# 7月6日(月)

聖書  
聖句

使徒 2・37～39

悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい。 38節

教会のシンボルは？ 十字架！そのとおりです。アクセサリーではありません。イエス様は私たちの罪のためにそのむごい十字架刑を受けられたのです。イエス様を十字架につけたイスラエルの人々はペテロの言葉がグサリと心につきささるので「どうしたらよいのでしょうか」と使徒たちに言いました。「悔い改めなさい」が答えでした。教会は、悔い改めて、十字架によって罪ゆるされた人々の集まりなのです。

いのちの祈り  
天のお父様、私の心もあなたの言葉で強く刺され罪がわかりました。悔い改め、ゆるされ、受洗して教会員になりたいです。

# 7月9日(木)

聖書

使徒 2・42

聖句

そして一同はひたすら、使徒たちの教を守り、信徒の交わりをなし、共にパンをさき、祈をしていた。 42節

昔イスラエルの人たちは、神様にどんなにかよくしていただいたことを、よく忘れて、罪を犯しまくりました。そんなことがないために、イエス様は「聖餐」を定めて記念するようにと私たちを導いてくださいます。パンを「をさき」というのはその聖餐式で、パンを食べ、ぶどう汁を飲むことをさしています。そのたびに私のための十字架を心に深く覚えて感謝するのです。お祈りも特別な恵みです。神様の素晴らしいみわざは私たちの祈りにかかっています！

いの

祈り 天のお父様、私も洗礼を受けて、聖餐を受けられますように。教会に来て、みんなでお祈りができますように。

# 7月8日(水)

聖書

使徒 2・42

聖句

そして一同はひたすら、使徒たちの教を守り、信徒の交わりをなし、共にパンをさき、祈をしていた。 42節

冬ならたき火、夏ならバーベキューやキャンプファイヤーや飯、う炊はんでまきを燃やすでしよう？ そのまきは、一本ではすぐ消えてしまふけど、二本、三本、三千本（ヒュー）となるとどんどんよく燃えるのです。ちょうどそのように、救われた信徒たちは共に交わり、お互いに心熱く燃やされていきます。その交わりの中心は使徒たちの教でした。そうしてきよい交わりが保たれました。だから、日曜日に教会に来て、交わることはとても大切です。

いの

祈り 天のお父様、私の信仰もしっかり熱く燃えつづけるように、これからも教会学校に励むことができますよう助けてください。

# 7月11日(土)

聖書

使徒 2・46～47

聖句

そして主は、救われる者を日々仲間に加えて下さったのである。 47節

その仲間のさらに素晴しいところは、「日々心一つにして」教会に共に集まっていたこと。家でもパンをさき、よろこびと、まごころをもつて食事を共にしていたこと。いつも神様をさへんびしていたこと。だから、すべての人に好意を持たれていたことです。私たちの教会や、家庭も、みんなで心一つにして、よろこんで、まごころからすべてのことをしたいですね。そういう仲間のところに、神様は、救われて加えられる仲間を与えてくださいます。

いの

祈り 天のお父様、このような仲間になれるように聖霊に満たしてください。次々と救われる人が与えられますように。

# 7月10日(金)

聖書

使徒 2・43～45

聖句

みんなの者におそれの念が生じ、多くの奇跡としるしとが、使徒たちによって、次々に行われた。 43節

この世にはいろいろな交わりがあります。みんなもいろんな人の仲間の中で交わってますよね。良い仲間あれば悪い仲間だってあります。悪い仲間と交わると、どんどん神様から離されて、また罪の沼にひきずり込まれてしまいます。でもこの教会の仲間たちはちがいました。何と、交わり祈り、パンをさき、教を守っていくに従って、一人ひとりの心におそれの念が生まれていくのです。神様を心からおそれ敬う心です。とてもよい仲間たちですね。

いの

祈り 天のお父様、私のまわりにも悪の道へ足を引っぱる仲間がいます。教会の一番素晴しい仲間を大切にします。

# 7月12日(日)

聖書

使徒 3・1～10

聖句

金銀はわたしには無い。しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい。 6節

「お金さえたくさんあれば絶対、大丈夫！」と、そう思いますか？ たくさんの人たちがそう考えているでしょうね。ここに登場する「生れながら足のきかない男」の人もそう考えていたようです。もちろんこの人はたくさんのお金というより、その日その日に必要なお金を人々からもらっていたのでした。ところが！人が生きていく上で一番必要で大切なものはイエス様を信じる信仰だ！ということがわかります。

いのちの祈り 天のお父様、一回きりの大切な私の一生です。その中で一番大切で必要なものが信仰だということをしっかり教えてください。



聖書

使徒 3・1～10

タイトル

美しの門

暗唱聖句

金銀はわたしには無い。しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい。 使徒 3・6

目標

イエス・キリストを信じる信仰の力を証しよう。

# 7月14日(火)

聖書

使徒 3・3～8

聖句

彼は、ペテロとヨハネとが、宮にはいって行こうとしているのを見て、施しをこうた。 3節

長い間の習慣はなかなかおられないでしょう？ みんなはまだ幼いから、そうでもないかもしれませんが、この男の人は、実は40年間、もこういうふうにして、門の前に置かれては、通りすがりの人々に施しをこうしていたのです（4・22）。赤ちゃんの時はちがったでしょうけれど、ペテロとヨハネとが宮にはいって行くとしていたのを見て、いつもと同じように施しをこうたのでした。これしかできることがなかったのです。何て悲しい毎日だったでしょう。

いのちの祈り 天のお父様、この男の人の心は、あきらめ一杯だったでしょう。あなたはそんな人にも届いてくださり感謝です。

# 7月13日(月)

聖書

使徒 3・1～2

聖句

さて、ペテロとヨハネとが、午後三時の祈のときに宮に上ろうとしていると、生れながら足のきかない男が、かかえられてきた。 1～2節

「人生は出会いで決まる！」って言葉、ちよと堅いけど聞いたことがありますか？ ペテロとヨハネはお祈りのために宮に上ろうとしていました。そこへ、「生れながら足のきかない男」がかかえられてきて、置かれたのです。「出会い」、それは愛とあわれみの神様のハートの中で計画されたものでした。このような不思議で素晴らしい新しい出会いは神様によります。この男へのあわれみの心が出会いを計画しました。

いのちの祈り 天のお父様、あなたが私にも与えてくださる、素晴らしい出会いを感謝します。そんな出会いを大切にします。

7月16日(木)

聖書  
聖句

使徒3・9～10

これが宮の「美しの門」のそばにすわ  
って、施しをこうていた者であると知  
り、彼の身に起ったことについて、驚  
き怪しんだ。 10節

「えーっ、うっそうー、ホントウ？」なん  
て、昔はやりましたね。そこにいた人々は  
目を疑ったことでしょう。「え？今、宮に  
はいっていったのは誰だ？」踊りあがつて、  
歩き回って、神をさんびしながら宮にはい  
っていったぞー！」「あの美しの門のそばにい  
つも置かれて、施しをこうていた人じやな  
いか！と、本当に人々のあいた口はふさ  
がりません。何だ？何？ってね。信仰に  
よってこんなに変わられるとすーいですね。

いのちの祈り 天のお父様、まわりの人々が驚き怪しみ、不思議  
がるほどに、イエス様を信じる私たちが変わられ  
ますように。

7月15日(水)

聖書  
聖句

使徒3・3～8

金銀はわたしには無い。しかし、わた  
しにあるものをあげよう。ナザレ人イ  
エス・キリストの名によって歩きな  
さい。 6節

ペテロとヨハネとはこの人をじっと見て「わ  
たしたちを見なさい」と言いました。この  
男の人はやっぱり同じ心で、何かもらえる  
のかなと期待して、彼も二人を見つめた  
のでした。すると意外な言葉がペテロの口  
から出ました。そしていきなり彼の右の手  
が取られて引き起こされたのです。する  
と！信じられないようなことが起りまし  
た。踊りあがつた！立った！歩き回る！  
神を賛美した！そして宮にはいつて行つた！

いのちの祈り 天のお父様、お金では人生は変えられません。  
この人に一番必要だったいやしは主の名を信じる  
信仰により与えられたことがわかりました。

7月18日(土)

聖書  
聖句

使徒3・17～26

だから、自分の罪をぬぐい去っていた  
だくために、悔い改めて本心に立ちか  
えりなさい。 19節

「いのちの君イエス様を殺したことは神様  
の預言がそのとおりになったことで、あなた  
がたもあなたがたの指導者たちも知らずに  
やつてしまったことはわたしにはよくわかって  
いる」と、ペテロも、イエス様の心に満たされ  
て言つたのは驚きですね。これほどまでもし  
て神様が救いの道を開いてくださったのだけ  
ら、きれいなさっぱり罪をぬぐい去ってもらえ  
るのだから、悔い改めて本心に、神様に立  
ち返りなさい、それが祝福なのだからと勧  
めました。

いのちの祈り 天のお父様、神様の広くあたたかいお心がよく  
わかりました。私も悔い改めて祝福の道を歩み続  
けていきます。

7月17日(金)

聖書  
聖句

使徒3・11～16

イエスによる信仰が、彼をあなたがた  
一同の前で、このとおり完全にいやし  
たのである。 16節

ごよめきくですね。人々はあまりにもひ  
どく驚いたのです。超、超、ビックリ仰天  
だったのです。たしかにそうでしょう。そこに  
あなたがたも同じように驚いたでしょうね。  
ペテロとヨハネとその男のいた「ソロモンの廊  
」にどやどやつて集まってきました。ペテロはこ  
こでも大胆にあかしました。「わたしたち  
ではない。イエスの名を信じる信仰が彼を強  
くし、完全にいやしたのだ」と。イエス様の  
名を信じる信仰の力は何ですーいでしょう！

いのちの祈り 天のお父様、目には見えませんが、イエス様の  
み名を堅く信じていく時、あなたが素晴らしいみ  
わざをなさってくださいと信じます。



7月19日(日)

聖書

使徒 4・1～14

聖句

この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである。 12節

夏だ！海に行きますか？キャンプも楽しみですね。きょう学ぶ「救い」とは？金魚すくいではありません。おぼれた人を救い出すのとも、ちよつと、いいえ、ずいぶんちがっています。イエス様の救いとは、人を、罪から、永遠の滅びから救う救いです。私たちは自分で自分を変えることも救うこともできません。大人になっても無理です。イエス様の十字架を信じてはじめて、罪から救われ、永遠に救われるのです。

いのちの祈り 天のお父様、人を恐ろしい罪と滅びから救い出すたつた一つのお名前、イエス様を信じることができ感謝します。



聖書

使徒 4・1～14

タイトル

タイトル 救いうる名

暗唱聖句

この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである。使徒 4・12

目標

人を救うイエス様の名を伝えよう。

7月21日(火)

聖書

ヨハネ 1・29～34

聖句

その翌日、ヨハネはイエスが自分の方々にこられるのを見て言った、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」。 29節

バプテスマのヨハネを知っていますか？どんな人だったでしょう。イエス様より6ヶ月お兄さん。救い主イエス様のために道を備えた人でした。道路工事ではありません。人々の心が、悔い改めに導かれ、救い主を心にお迎えできるように備えたのです。ある日のこと、ベタニヤにいたヨハネのところにイエス様がやってこられるのを見て、ヨハネは叫びました、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」と。そうです。人の罪を取り除くたつた一人の救い主です。

いのちの祈り 天のお父様、イエス様を心にお迎えして、罪をゆるしていただき、きよくしていただけるよう心を備えさせてください。

7月20日(月)

聖書

マタイ 1・18～25

聖句

その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである。 21節

クリスマスが近づくとよく聞く聖書の部分ですね。結婚もしていないマリヤに子どもが宿って、婚約者のヨセフが、「うーん、これはどうしたのか」と悩んでいた時でした。主の使いが夢にあらわれて、秘密をあかしてくれました。ビックリするような主の使いの言葉！マリヤは聖霊によつて子どもを宿している。その子を「イエス」と名づけなさい。この子は人々を罪から救う者となるのだからと。人を罪から救うたつた一つのお名前がイエスなのです。

いのちの祈り 天のお父様、生まれる前から、イエスと名前が決められ、そのとおりに救い主として生き、死に、よみがえってくださり感謝します。

# 7月23日(木)

聖書  
聖句

使徒 4・5～12

神が死人の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの御名によるのである。  
10節

神様のスゴイみわざがなされると、必ずと言っていいほど、ねたましく思う人々があらわれます。大祭司、その一族、役人、長老、律法学者たち、祭司たち、宮守がしら、サドカイ人たちですね。「だれの名によって、このことをしたのか」「あなたがたが十字架につけて殺したのを、神が死人の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの御名によるのである。このみ名以外にわたしたちを救いうる名は、天下のだれにも与えられないのだ。そんなやりとりでした。

いのちの祈り 天のお父様、ペテロやヨハネのような強い確信と大胆と勇気を私にも与えてくださって、イエス様を伝えさせてください。

# 7月22日(水)

聖書  
聖句

使徒 4・1～4

彼らの話を聞いた多くの人たちは信じました。そして、その男の数が五千人ほどになった。  
4節

男の人が五千人と書いてあります。そこにはきつと女の人や子どもたちもいたでしょう。倍以上、もしかしたらそれ以上の人々が信じたのでしようね。つまり「イエス自身に起つた死人の復活」の話を信じたわけです。神様がイエス様を死人の中からよみがえらせてくださいました。そして、イエス様だけが、死の力を打ち破られた、たった一人の救い主だと教えてくださったのでした。それを伝えたいとペテロとヨハネとは、捕えられて次の朝まで留置所にいました。

いのちの祈り 天のお父様、どんな目にあってもイエス様のことを伝えたいとペテロとヨハネとが、どんなに聖霊に満たされていたかよくわかります。

# 7月25日(土)

聖書  
聖句

ヨハネ黙示録 5・6～14

ほふられた小羊こそは、力と、富と、知恵と、勢いと、ほまれと、栄光と、さんびとを受けるにふさわしい。12節

「ほふられた小羊」とは、十字架で殺された神の小羊、イエス様のことです。やがて天の御国において、世界中の救われた人々がこの救い主イエス様を礼拝し、賛美する日が来るのです。世界地図とか、世界の民族とか、もう社会で勉強しましたか？顔つきも色々、言葉も色々、年令も色々、時代を超え、国を超え、すべての民族を超えて、たった一人の救い主、それがイエス様なのです！そんなイエス様を知ってハレルヤでしょう？永遠にハレルヤです！

いのちの祈り 天のお父様、本当にイエス様にこそ、すべての栄光とさんびをおささげすべきことを思い、たった一人の救い主を伝えさせてください。

# 7月24日(金)

聖書  
聖句

使徒 4・13～14

ふたりが無学な、ただの人たちであることを知って、不思議に思った。13節

大胆に語るペテロとヨハネを見ていた人々は、「アレ？この人たちって、漁師だったよな。よく勉強して律法を学んできたラビでもないし、それほど学のある人たちでもないし、ふつうの人たちなのに、何だろう？この大胆さは！」って、不思議に思い首をかしげていました。しかし、ペテロとヨハネがいつもイエス様と一緒にいたことを思い出し、目の前にいやされた男の人がいるのを見ていれば、もう何と答えていいのかわからないありさまでした。

いのちの祈り 天のお父様、ペテロとヨハネに与えられた大胆と勇気と奇跡の力は、ただ、救い主イエス様によることまちがいないとわかりました。

7月26日(日)

聖書

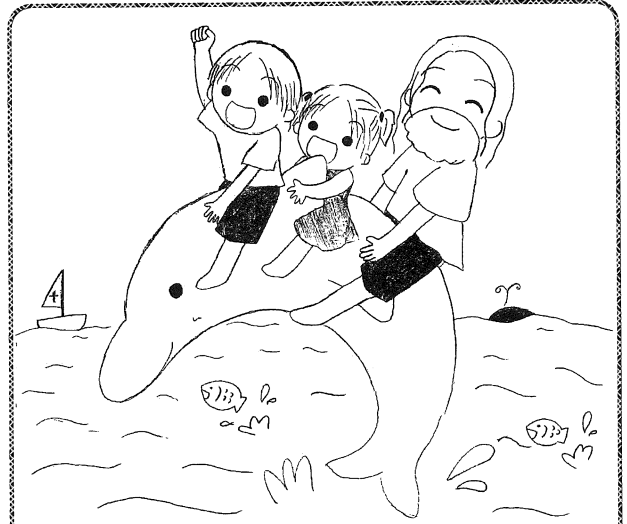
使徒4・15～22

聖句

わたしたちとしては、自分の見たこと  
聞いたことを、語らないわけにはい  
かない。 20節

「うわあ、グッド・ニュースだー」「すごいこ  
とを見てしまったよ」というようなとき、「教  
えてあげなきゃー」ときつと思うでしょう。  
そうしたからといって、今わたしたちはじやま  
されたり、迫害されたりはありません。ペ  
テロやヨハネの場合は、まさに迫害をかくご  
した！大祭司や他のねたみ深い人たちは、「イ  
エスの名によって二度と語るな」と言いま  
す。しかしです。真の主の証人たちはそこま  
で言われても語らないわけにはいきません。

いのちの祈り 天のお父様、信仰の目をもってイエス様を仰ぎ、  
十字架による罪のゆるしをいただいた喜びを語り  
つづけます。



聖書

使徒4・15～22

タイトル

イエスの名によって

暗唱聖句

わたしたちとしては、自分の見た  
こと聞いたことを、語らないわけ  
にはいかない。 使徒4・20

目標

主の証人として大胆に語ろう。

7月28日(火)

聖書

使徒4・19～20

聖句

神に聞き従うよりも、あなたがたに聞  
き従う方が、神の前に正しいかどうか、  
判断してもらいたい。 19節

協議の結果は、「今後はこの名によって、い  
つさいだれにも語ってはいけないと、おどして  
やるうではないか」ということになりました。  
おどされたことありますか？「教会学校な  
んかに行くの、やめてしまえ！」なんておど  
されたら、とても恐くて、やめてしまうお  
友だちもいるかも。「イエスの名によって語る  
な！」とおどされましたが、ペテロとヨハネ  
はこわがるどころか、「神に聞き従う」こと  
の方が、あなたがたに聞き従うより大切！  
とはね返しました。

いのちの祈り 天のお父様、人のおどしにも恐れたりしないで、  
あなたにどこまでも従い続け、大胆に語り続けさ  
せてください。

7月27日(月)

聖書

使徒4・15～18

聖句

あの人たちを、どうしたらよからうか。  
16節

議会に集まっていた大祭司や長老や律法学者  
たちは、頭を寄せ合って、ペテロとヨハネをどう  
したらいいかと協議しました。ペテロとヨハネは  
本当の主の証人、大胆に語り、イエスの名によ  
って神のわざをあらわしました。わたしたちは  
どうでしょうね。こそりクリスチャン、だんま  
りクリスチャン、おかくれクリスチャン、ひっそ  
りクリスチャンなんていないかな？いつでもどこ  
でもクリスチャン、イエスの名によって語るクリ  
スチャンになりたいですね。

いのちの祈り 天のお父様、教会のことや、聖書のことや、神様  
のこと、イエス様のことをお友だちにお話しでき  
ますように。

7月30日(木)

聖書  
聖句

使徒 6・8～15  
彼は知恵と御霊とで語っていたので、  
それに対抗できなかった。 10節

大胆な主の証人―ステパノ―エルサレムの教会  
で、食べ物のごとでゴタゴタがあつて、「御霊と  
知恵とに満ちた、評判のよい人たち」七人が  
選ばれました。その中の一人、一番に名前を呼  
ばれるくらいですから一番立派だったのだしよ  
うね。彼は恵みと力に満ちて、めざましい奇跡  
とをしるしを行いました。「リベルテン」の会堂に  
属する人々やその他の人々がステパノと議論し  
ましたが、知恵と御霊とで語っていたステパノに  
はとても勝てませんでした。

いのちの祈り  
天のお父様、ステパノを知恵と御霊とで満たし  
てくださったように、私もそのようになれるよう  
に求めます。

7月29日(水)

聖書  
聖句

使徒 4・21～22  
みんなの者が、この出来事のために、  
神をあがめていた…。 21節

おどした人たちは、自分たちのおどしは、ペ  
テロとヨハネには全く何の力もないことを知りま  
した。何とか懲らしめてやりたい、もっとひどい  
目にあわせてやりたいという気持ちでいっぱいだ  
つたことでしょう。ところが、みんなの者は、ペ  
テロとヨハネが足の悪い人をいやし立たせたとい  
うこの出来事のために、心から神をあがめてい  
たので、人々の手前、二人を罰することができ  
なかつたのです。神があがめられるようにする、  
これが証人ですね。

いのちの祈り  
天のお父様、わたしたちがなすこと、話すこと、  
すべてをとおして、本当にあなたがあがめられる  
ようになりますように。

8月1日(土)

聖書  
聖句

使徒 7・54～60  
主よ、どうぞ、この罪を彼らに負わせない  
で下さい。 60節

それほどまでに罪をあばかれれば、たまつた  
ものではありません。人々は心の底から激しく  
怒り、ステパノにむかつて、歯ぎしりをしました。  
でも、天を見つめていたステパノの目に見えたも  
のは、神の右に立っておられるイエス様でした。「人  
の子が見える」と言う、人々は耳をおおい、  
大声で叫び、ステパノを石で打つたのです。石で  
打たれながらステパノはイエス様のよう祈りま  
した。その姿がサウロという若者の心に焼きつい  
て離れなかつたのです。

いのちの祈り  
天のお父様、証人の道は命がけの道だと知りま  
した。そのステパノの姿がサウロの回心に大きく  
働いたことは大きな励ましです。

7月31日(金)

聖書  
聖句

使徒 7・44～53  
ああ、強情で、心にも耳にも割礼のな  
い人たちよ。あなたがたは、いつも聖霊  
に逆らっている。 51節

「あつーそれってやつちやいけないことだよ」  
と他の人やお友だちに言うのはとても勇気  
のいることですね。それを、大胆にも強烈  
に語つたのがステパノでした。先祖たちがず  
つとそうであつたように、いつも神様の聖霊に  
逆らい、どの預言者も、どの預言者も神様  
からつかわされたすべての預言者を迫害して  
きました。彼らが予告した正しいかた、イエ  
ス様さえも裏切り、殺した！とステパノは言  
い切りました。聖霊によらなければとてもで  
きないことです。

いのちの祈り  
天のお父様、これほどまでの大胆な主の証人ス  
テパノからとても大きなチャレンジを受けます。  
聖霊を求めます。

## 8月2日(日)

聖書  
聖句

使徒 4・23～31  
主よ、いま、彼らの脅迫に目をとめ、僕たちに、思い切って大胆に御言葉を語らせて下さい。

29節

言葉の暴力、いじめにあったことがあるでしょう。ペテロとヨハネはおどされて、ゆるされて仲間のところに帰ってきました。そしてすべてのことを報告したのです。すると一同は口をそろえて、神様にむかって声をあげました。「これらのことは皆聖霊によってダビデが預言したとおりです」と。キリストに逆らう人々を見ながらも、恐れるどころか、ますます「思い切って大胆に御言葉を語らせて下さい」と祈ります。主が見てくださると信じたからです。

いのちの祈り  
天のお父様、み言葉を語れば、そこに聖霊が注がれ、聖霊に満たされてますますみ言葉が語れる、よい循環がわかりました。



聖書

使徒 4・23～31

タイトル

聖霊に満たされて

暗唱聖句

主よ、いま、彼らの脅迫に目をとめ、僕たちに、思い切って大胆に御言葉を語らせて下さい。 使徒 4・29

目標

どんな迫害も恐れずみ言葉を語ろう。

## 8月4日(火)

聖書  
聖句

使徒 4・29～31  
彼らが祈り終わると、その集まっていた場所が揺れ動き、一同は聖霊に満たされて、大胆に神の言を語り出した。

31節

ペテロやヨハネ、そしてその仲間たちは誰を一番恐れていたでしょうか。王様でも、支配者たちでもありません。どんなにおどされても、彼らはただおひとりの神様、そしてこの神様がおつかわしになられたイエス・キリストを心から恐れうやまい、信頼し、このお方に熱いお祈りをささげました。祈るところに天からの聖霊がますます豊かに注がれ、彼らは聖霊に満たされて、大胆に神の言を語り出しました。私たちもみ言葉を覚えて語りたいですね。

いのちの祈り  
天のお父様、いろいろな言葉があふれている中で、私たちの心を生かしてくれるみ言葉をもっと語らせてください。

## 8月3日(月)

聖書  
聖句

使徒 4・23～28  
み手とみ旨とによって、あらかじめ定められていたことを、なし遂げたのです。

28節

「地上の王たちは、立ちかまえ、支配者たちは、党を組んで、主とそのキリストとに逆らったのか」(26)は、詩篇2・2に記されている言葉のとおりです。聖書はとも不思議な本です。まさに旧約聖書は預言の本で、新約聖書は、その預言がそのとおりになった！とわかる本です。聖書をよく読んで心にしまっていくと、とても助けられますよ。私たちの毎日のできごとの中にも、「ああ、こんなことも聖書に書いてあったよね」と、とても慰められるのです。

いのちの祈り  
天のお父様、あなたはすべてのことをご存知で、私たちに起こってくる一つ一つの事を支配していただく感謝します。

8月6日(木)

聖書

使徒13・13～30

聖句

イスラエルの人たち、ならびに神を敬うかたがたよ、お聞き下さい。 16節

入学してはじめて小学校に行つたお友だちとか、転校してはじめての土地で、はじめて学校に行つたお友だちは、最初ドキドキで、あまりおしゃべりできなかったかもしれないね。ここにはパウロとバルナバがはじめてピシデヤのアンテオケという所に行つた時のことが記されています。日曜日に会堂に入つて座っていると、「何かお話をしたいですか?」と言われて、パウロは堂々と神様の救いのご計画と、主イエスの十字架と復活のことを話しました。

いのちの祈り

天のお父様、本当にパウロのように聖霊に満たされて、どこでも、イエス様による救いを語れますように。

8月5日(水)

聖書

使徒13・4～12

聖句

サウロ、またの名はパウロ、は聖霊に満たされ、彼をにらみつけて言った…。 9、10節

聖霊なる神様は、私たちの心の目をパッチリ開いて、物事や人をちゃんと見ぬけるようにしてください。ことがわかります。ここはサウロとバルナバが聖霊に送り出されて、第一次伝道旅行に出かけた時のできごとです。神の言葉を聞くとして、バルナバとサウロを地方総督セルギオ・パウロが招くと、魔術師エルマはじやまばかりします。パウロは聖霊に満たされ、「目が見えなくなれ」と言うたちまちそうなり、総督は驚くと共に、主を信じました!

いのちの祈り

天のお父様、聖霊に満たしてください。そして、すべての人やできごとをちゃんと見ぬける者としてください。

8月8日(土)

聖書

使徒13・44～52

聖句

弟子たちは、ますます喜びと聖霊とに満たされていた。 52節

あなたの小学校や幼稚園のお友だち全員が、教会学校にお話を聞きにきてくれたらスゴイことになりますね!ここでは、次の日曜日にパウロの話を聞きにピシデヤのアンテオケ市のほとんどすべての人が集まってきたのですから、それはそれは大変な人だかりだったでしょう。神様の祝福があらわされると、悪魔にそそのかされて、ねたみ迫害する人々が必ず起ります。ユダヤ人たちがそうでした。でもパウロとバルナバはますます聖霊に満たされました。

いのちの祈り

天のお父様、悪魔がくやしがつてねたむほど、聖霊に満たされ、あなたの祝福をいっぱい注いでいただけますように。

8月7日(金)

聖書

使徒13・31～43

聖句

このイエスによる罪のゆるしの福音が、今やあなたがたに宣べ伝えられている。 38節

「このお話、また聞きたいなあ、また来週も同じお話をしてください!」と人々がパウロのお話を聞いて言ったのです。どんなに興味深く、面白いお話だったのでしょうか?あなたもそんな思いになるようなお話を聞いたことがあるのかな?それは「神がイエスを死人の中からよみがえらせて」(30、33、34、37)このイエスを信じる者を罪ゆるされた者としてくださるというお話でした。つまり、「福音グッド・ニュースですね!今もすべての人が必要としているのです。」

いのちの祈り

天のお父様、私にも教会で福音を聞かせてくださり感謝します。今度は聖霊に満たして下さって福音を伝えさせてください。

# 8月9日(日)

聖書

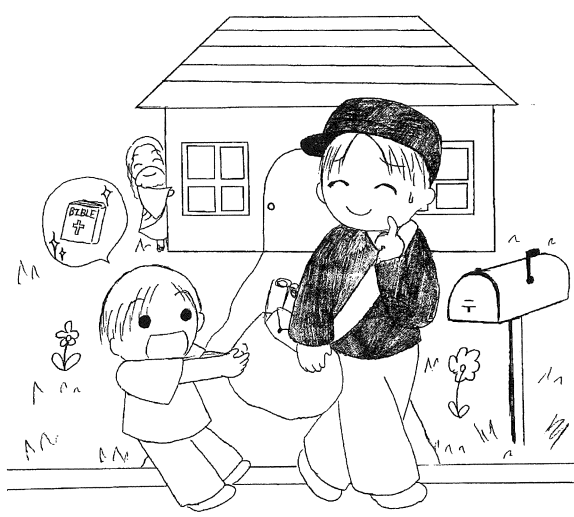
使徒 5・12～21

聖句

宮の庭に立ち、この命の言葉を漏れなく、人々に語りなさい。 20節

「ここで見るペテロや使徒たちの姿は、ポツポツと、湯気がたつてゐるみたいですね。次々として奇跡が行われ、病気の人が一人残らずいやされました！民衆は尊敬していましたが、「嫉妬の念に満たされて立ちあがったのはサドカイ人たちでした。何という対照でしょう！「嫉妬の念に満たされた人」と、「命の言葉と聖霊に満たされた人」と。もちろん神様は、ご自分の命の言葉を聖霊に満ちて語るペテロや弟子たちの味方！主の使いが励ましています。

祈り 天のお父様、私の心もお友だちへのねたみの思いではなく、あなたの聖霊とみ言葉でいっぱいにしてください。



聖書 使徒 5・12～21

タイトル 命の言葉

暗唱聖句 宮の庭に立ち、この命の言葉を漏れなく、人々に語りなさい。 使徒 5・20

目標 命の言葉を語りつづけよう。

# 8月11日(火)

聖書

使徒 5・21～32

聖句

人間に従うよりは、神に従うべきである。 29節

噴き出している泉とか井戸の水とか見たことありますか？どんなにふたをしてもダメです。どんどん噴き出して流れていきます。ペテロや使徒たちはちょうどこんな泉のように、おどかしてもダメ、だまらな、獄に入れてもダメ、ぬけ出しては命の言葉を語ります。獄に入れた人たちは「一体これはどういうことか？」とあわて戸惑いました。議会で問いただされると、またもや堂々と、「神に従うべきである」と、きつぱりと返事が返ってきました。

祈り 天のお父様、ペテロや使徒たちの「神様第一」、「み言葉第一」の姿勢に、私もならうことができますように。

# 8月10日(月)

聖書

使徒 5・1～11

聖句

あなたがたふたりが、心を合わせて主の御霊を試みるとは、何事であるか。9節

聖霊が豊かに注がれて、はじめの教会が祝福に満たされ、信徒たちが心一つに進んでいました。さっそく、悪魔はねたんで働いてきます。バルナバと呼ばれるヨセフが良い心をもって畑を売った代金を主におささげたのを見て、アナニヤとサツピラ夫婦も同じように人気を得ようとしたのでしょうか。資産を売ってささげましたが、代金を二人してごまかしたのでした。聖霊なる神様はごまかせません。二人とも殺されるという厳しい罰となりました。

祈り 天のお父様、聖霊なる神様はまさに聖なるお方であり、この方をあなどったりごまかししたりするのは大きな罪だと深く知らせてください。

# 8月13日(木)

聖書

使徒14・1～8

聖句

主は、彼らの手によってしるしと奇跡  
とを行わせ、そのめぐみの言葉をあかせ  
された。 3節

パウロとバルナバの第一次伝道旅行の続き  
です。二人はアンテオケで迫害されて、次は  
イコニウムへ行き、ユダヤ人の会堂で命の言葉  
を語りました。大ぜい信じましたが、また前  
と同じように信じなかったユダヤ人たちはユダ  
ヤ人でない人々をそそのかして悪意をいだか  
せました。それでも二人は長い間、そこで主  
のことを語りました。ついに反対運動が起こ  
つて、石で打たれそうになったので、ルカオニ  
ヤ、ルステラ、デルベへと福音を伝えていきま  
した。

いのちの祈り 天のお父様、パウロとバルナバの姿はスゴイと  
しか言いようがありません。わたしの心も励まし  
て語らせてください。

# 8月12日(水)

聖書

使徒5・33～42

聖句

毎日、宮や家で、イエスがキリストの  
あることを、引きつづき教えたり宣べ  
伝えたりした。 42節

ペテロや使徒たちのあかしは命がけでした。  
なぜなら、人々は激しい怒りのあまり、使徒  
たちを殺そうと思つたからでした。しかし、  
そこに神様が備えてくださったガマリエルとい  
う人がいました。国民全体に信頼されていた  
律法学者です。神様からの知恵をいただいて  
人々の怒りを治めました。と言っても使徒た  
ちはむち打たれ、またイエスの名によって語  
るなときつく言われましたが、彼らは喜ん  
で出てきて、毎日、宮や家で語りつづけたの  
です。

いのちの祈り 天のお父様、使徒たちの心の中は命の言葉で満  
ちあふれてやめられなかったほどだったことにチ  
ャレンジをうけます。

# 8月15日(土)

聖書

使徒14・19～23

聖句

「わたしたちが神の国にはいるのには、  
多くの苦難を経なければならぬ」と  
語った。 22節

人々のねたみと怒りがどつと追いかけて  
きました。あるユダヤ人たちがアンテオケや  
イコニウムから群衆を仲間に引き入れてです。  
しつこいですね。彼らはパウロを石で打ち、  
死んでしまったと思つて、彼を町の外に引き  
ずり出しました。パウロは死んだのでしう  
か。いいえ、弟子たちが心配そうに取り囲  
んでいる間に起き上がり、次の日、デルベへ  
さらにまたルステラ、イコニウム、アンテオ  
ケへ帰つて、このみ言葉をもつて弟子たちを励  
ました。

いのちの祈り 天のお父様、パウロの内に秘められたものすご  
い信仰のパワーを見ます。それはすべて命の言葉  
の力がもとでした。

# 8月14日(金)

聖書

使徒14・8～18

聖句

大声で「自分の足で、まっすぐに立ち  
なさい」と言った。すると彼は踊り上  
がって歩き出した。 10節

ルステラの奇跡！生れながらの足のきか  
ない人ですから、生れてから一度も立たな  
い人も歩いたこともない人でしたよ。この人が  
パウロの語る命の言葉にじつと聞き入つてい  
たのです。パウロはその彼をじつと見て、いやさ  
れるほどの信仰があるのを見てとりました。  
そして大声で「自分の足で、まっすぐに立ち  
なさい」と叫んだのです。するとどうでしょ  
う。彼は躍り上がつて歩き出しました！命  
の言葉の力はスゴイ！そのあと、パウロは辞ま  
れて大変でしたが。

いのちの祈り 天のお父様、あなたのみ言葉は、まさに命の言葉  
です。しっかりと聞いて生かされ、しっかりと語つて  
いけますように。



# 8月16日(日)

聖書

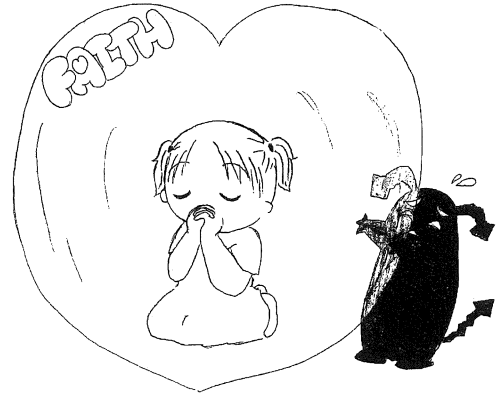
I ペテロ 1・1～12

聖句

あなたがたは、終りの時に啓示さるべき救にあずかるために、信仰により神の御力に守られているのである。5節

「あの時は本当に神様が守っていてくださったんだ」とちよつとソツとするような思いになることがあるでしょう。ここでの守りは、「終りの時に啓示さるべき救(い)」とありますから、ただ身の危険からの守りだけではありません。その信仰が、魂が天国に行けるように守られることです。今も世界のあちこちでは、いろいろな迫害で死んでいく人々がいます。神の守りはないのでしょうか? いいえ、身体が減るより神様を信じる信仰が守られる方が大切なのです。

いのちの祈り 天のお父様、身体以上にあなたからいただいた信仰が終りまで守られますように、あなたの守りの御力を信じます。



聖書

I ペテロ 1・1～12

タイトル

散らされた人々へ

暗唱聖句

あなたがたは、終りの時に啓示さるべき救にあずかるために、信仰により神の御力に守られているのである。

I ペテロ 1・5

目標

守っていてくださる神の御力を信じよう。

# 8月18日(火)

聖書

I ペテロ 1・3～9

聖句

あなたがたは、イエス・キリストを見たことはないが、彼を愛している。8節

包丁やナイフはとがれなければ役に立たないように、私たちの信仰もためされて、強められ固められていかなければなりません。その時は、悩むかもしれませんが、その中でも信じている人は喜ぶことができるから不思議です。その鍵は、「喜びの油」がだれよりも多く注がれているイエス様を信じていることです。ペテロが手紙を送ったのは、イエス様が天に帰られたあとで信じた人々ですが、魂が罪から救われて、言葉につくせない、輝きに満ちた喜びであふれていました。あなたは?

いのちの祈り 天のお父様、私もまだこの目で直接見たことではないですが、イエス様を愛して、心から喜ぶ子どもにしてください、ありがとうございます。

# 8月17日(月)

聖書

I ペテロ 1・1～2

聖句

ポント、ガラテヤ、カパドキヤ、アジアおよびビテニヤに離散し寄留している人たち。1節

今年もキャンプでなつかしいお友だちと会えましたか? イエス様を信じているみんなが集まっている時は本当に幸せですね。キャンプが終って、またバラバラになっていくのはやっぱりさびしいです。ペテロが書いているこの手紙は、今のトルコ全域に広がってチリチリに離ればなれに散らされている人々にあてて書かれています。「住んでいる所は離れていても、イエス様を信じる信仰は一つですよ、しっかり従いましょう」と励ますお手紙なのです。

いのちの祈り 天のお父様、信仰のお友だちや先生を感謝します。離れていても同じ信仰をもっているのを励まされ感謝です。

# 8月20日(木)

聖書

聖句

I ペテロ 1・13～16

心の腰に帯を締め、身を慎み、イエス・キリストの現れる時に与えられる恵みを、いささかも疑わずに待ち望んでいなさい。 13節

ペテロは「こんなにも大切な救いにあずかっているのだから、しっかりと守るよ」と励まします。「心がだらけてしまわないように、身もくずれてしまわないように。すべての終りにイエス様が来られてごほうびをくださるのだからじっくりと待ち望みなさい」と。どのように待つとよいのでしょうか。「あらゆる行いにおいて聖なる者となる」ようにしていくのです。神様がきよいお方なのでならうていけば大丈夫です。

いのちの祈り 天のお父様、世の中はますます、あなたに逆らって汚れていきます。その中で聖なる者としてあなたを待ち望みます。

# 8月19日(水)

聖書

聖句

I ペテロ 1・10～12

この救いについては、あなたがたに対する恵みのことを預言した預言者たちも、たずね求め、かつ、つぶさに調べた。 10節

「ここを読むと、イエス様を信じて救われるということがどんなにかすごいことかとわかってきます。アダムとエバが罪を犯したその時に救い主の預言がされて、それ以来、長い長い間、多くの旧約の預言者が救いの預言をしてきました。そして、その預言のとおり、イエス様が救いのみわざをなさってください、その福音がまた多くの人々によって宣べ伝えられ、私に届きました！しかもそれは、御使いたちさえも「知りたいなア」と思っている救いだというのですから！」

いのちの祈り 天のお父様、ほんとうに罪人だけが経験できるイエス様の救いなのだと思えて知り、尊い救いを感謝します。

# 8月22日(土)

聖書

聖句

I ペテロ 1・22～25

草は枯れ、花は散る。しかし、主の言葉は、とこしえに残る。 24～25節

私たちは新しく生れ変わらせてくださるのは、イエス様の血潮と共に、「神の変わることに生けるみ言葉」なのです。人はみんな弱い草や花のようです。草は枯れるし、花は散っていきます。でもただ一つ、永遠に変わらないものがあります。それは、主の言葉です。それによつて、私たちは永遠に新しく生れ変われるのです！あなたはもう生れ変わりましたか？そのように新しくされた者同士は、互いに心から熱く愛し合っていくようにすすめられています。

いのちの祈り 天のお父様、こんなにも尊い救いにあずかり、あなたの御力に守られている者同士が、熱く愛し合えるようにお守りください。

# 8月21日(金)

聖書

聖句

I ペテロ 1・17～21

きずも、しみもない小羊のようなキリストの尊い血によつたのである。 19節

心が罪から救われるまでは、だれでも、こうしたら救われるのではないか、ああしたら救われるのではないかと、いろんなことに心うばわれます。太陽を拝んだり、月を拝んだり、キツネやワニを拝んだり、先祖がこうしていたからと意味のないことをしたり。でもそれらはみな空疎、つまり空しいのです。その中から本当に完全に救われて、生き生きと生かしてくださいるのは、ただイエス様が十字架で流して下さった尊いきよい血潮の力によります。

いのちの祈り 天のお父様、空しいすべてのことからきっぱりと別れて、イエス様によって生きがいのある生活が与えられ、うれしいです。

8月23日(日)

聖書

I ペテロ 4・1～11

聖句

身を慎んで、努めて祈りなさい。 7 節

ペテロがこの手紙を書いてから、もう二千年近くたっています。とすると、「万物の終りが近づいている」(7)どころか、「もう万物の終りだ!」って叫んでもおかしくないほどですね。小さい私たちにだって、世界はすごく狂ってきているってよくわかりますよね。『異常』『おかしい』という言葉がピッタリです。だから、いつ、この世界の終りがきてもよいように、毎日祈りながら、まがいのない歩みをして、神様の守りの中に生きていきましよう。

祈り 天のお父様、世界におこるできごとは、万物の終りが近いことを示しています。祈り深く一日一日を過ごさせてください。



聖書

I ペテロ 4・1～11

タイトル

万物の終り

暗唱聖句

身を慎んで、努めて祈りなさい。

I ペテロ 4・7

目標

いつ終りがきてもよいように、祈り深く生きよう。

8月25日(火)

聖書

I ペテロ 4・7～9

聖句

何よりもまず、互の愛を熱く保ちなさい。愛は多くの罪をおおうものである。 8 節

私たちはいつまで生かされるのかわからないので、お家の人も、お友だちとも、きくとまた明日会えるよ、という約束はできないのです。そういう私たちですから、第一に互いに熱く愛し合いなさいと言われます。「互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう」(ヨハネ 13:35)とイエス様も言われました。きょう、お友だちと会った最後!と思うくらいに、愛をあらわし合い、罪をおおってあげる生き方をしましよう。

祈り 天のお父様、愛なるあなたと、御子イエス様を心から信じる者として、すべての人を熱く愛する子どもにしてください。

8月24日(月)

聖書

I ペテロ 4・1～6

聖句

肉における残りの生涯を、もはや人間の欲情によらず、神の御旨によって過ごすためである。 2 節

私たち人間はだれ一人、自分がこの地上に何年何カ月何日何時間何分何秒生きられるのかわかる人はいません。とても心がひきしまりますね。その中でイエス様を信じて救われるということは、何と尊いことでしょう。罪の生活から救われたのです。ですからその後の残りの生涯——体どの位の長さかわからないのですが——を、自分の欲のままではなく、神様に喜ばれるように、神様の思いのままに過ごしていきたいと、ペテロのお勧めです。

祈り 天のお父様、幼い時にイエス様を信じる生活にしてくださり感謝します。あなたに喜ばれる生き方ができますように。

# 8月27日(木)

聖書

I ペテロ 4・12~14

聖句

むしろ、キリストの苦しみにあずかれ  
ばあずかるほど、喜ぶがよい。 13節

「あなたがたを試みるために降りかかって来る火のような試練」(12)をペテロの手紙を受け取った人々は受けていたのでしょうか。世界のクリスチャンのある人々は今も、そのような火のような試練の中にいます。日本の私たちには考えられないほどです。でも小さい私たちも教会に行っているからついでにやがらせを受けたり、心が痛むことがあるでしょう。「それは思いがけないことでも驚くことでもないよ、キリストの苦しみにあずかることだから喜ばなさい」というのです。

いのちの祈り

天のお父様、イエス様のお名前のために、苦しめられたりすることは幸いなことだとわかりました。力をくださって感謝します。

# 8月26日(水)

聖書

I ペテロ 4・10~11

聖句

神のさまざまな恵みの良き管理人として、それをお互のために役立てるべきである。 10節

「賜物」それは神様が一人一人にプレゼントしていただく能力で、だれでも何かできるのです。教会では、それを自慢したり、逆に隠したり、できない人を見下げたりするのでなく、へりくだって教会のためにお役に立てなさいということです。お話のできる人、賛美が好きで上手な人、楽器の得意な人、お花をきれいに飾れる人、パソコン、書道、料理、お掃除、いろんな修理工事。どんな人でもどこかで、教会のお役に立てるのです。あなたは何かができるのかな？

いのちの祈り

天のお父様、あなたが私に与えてくださっている力を用い、できることを心から精一杯教会のためにして、あなたがあがめられますように。

# 8月29日(土)

聖書

II ペテロ 3・8~13

聖句

しかし、主の日は盗人のように襲って来る。 10節

時というのはとても不思議で、長く感じたり、短く感じたりします。神様時計はまたまた不思議で、一日は千年のよう、千年は一日のようだというのです。イエス様が「再び来ます」と約束されて、もうずい分と時がたつてるけど？と言っても、二千年もたった二日なのだから!! 神様は一人も減びることがなく悔い改めて救われるようにと、長く忍耐して待っていてくださるのです。しかしその日は必ず来ます。天体が焼けくずれる時、あなたは大丈夫でしょうか？

いのちの祈り

天のお父様、その日がいつ来てもよいように、きよく信心深い行いをして、祈りながら日々備えさせてください。

# 8月28日(金)

聖書

I ペテロ 4・15~19

聖句

クリスチャンとして苦しみを受けるのであれば、恥じることはない。 16節

人の物を盗んだり、お友だちとけんかをした、よそのお家にいたずらをしたりなど、悪いことをして叱られたり、苦しい思いをしないようにしたいですね。でもイエス様を信じているからとか、教会に行っているからとかで苦しい目には合うとしたら、それは絶対に恥ずかしいことではありません。むしろ、神様をあがめましょう。こんな私も良いことで苦しむ者にしてくださって感謝しますって！そんな時は身も心も魂も神様にゆだねましょう。

いのちの祈り

天のお父様、私の苦しみも全部をわかっていてくださるあなたに、すべてをおまかせできてありがとうございます。

# 8月30日(日)

聖書

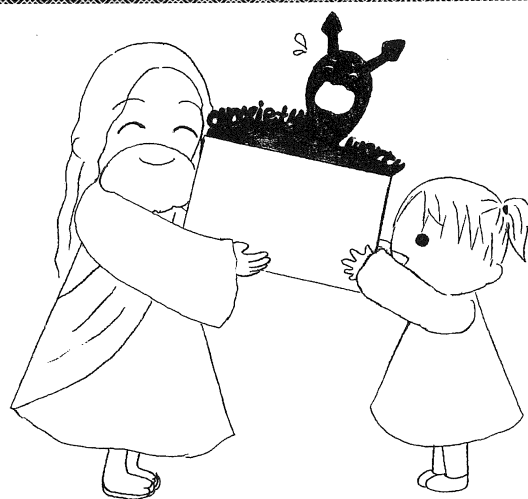
I ペテロ 5・1～11

聖句

神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。 7 節

あなたのことをいつも心配していてくれる人がいるでしょう。「きょうも大丈夫かな?」つて。お母さん、お父さん、(お兄さんはあまり?)お姉さん、おじいちゃんやおばあちゃん。心配していてくれる人がいるのはとてもうれしいですね。実はもう一人おられますよ。神様です。「かえりみていてくださる」という言葉は「心配していただくさる」ということです。だから、どうしよう?とよく考えないで、心配していただくさる神様にお祈りしておまかせしたらいいですよ。

**いのちの祈り** 天のお父様、あなたがこんな小さな私一人のことを心配してくださることを感謝します。すべてをゆだねていきます。



聖書

ペテロ 5・1～11

タイトル

栄光の冠

暗唱聖句

神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。 I ペテロ 5・7

目録

栄光の冠をめざして、すべてを神にゆだねて進もう。

# 9月1日(火)

聖書

I ペテロ 5・5

聖句

神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜うからである。 5 節

今日は若い人たちにです。幼い私たちもすぐに中学生、高校生、青年になっていきますよ!若い人たちの心得は何でしょう?「長老たちに従いなさい」「みな互いに謙遜を身につけなさい」とあります。牧師先生や牧師夫人や、教会の役員の方々や教会学校の先生方の言われることはとても大切なことだし、聞くだけでなく、言われたとおりに従っていくと祝福ですよ!そのようにして謙遜を身につけていけるのです。それは何より神様の願いなのです。

**いのちの祈り** 天のお父様、大切なことを教えてください。先生方感谢您。よく聞き従ってあなたの祝福の中を歩ませてください。

# 8月31日(月)

聖書

I ペテロ 5・1～4

聖句

大牧者が現れる時には、しばむことのない栄光の冠を受けるであろう。4 節

こはペテロが牧師先生たちにあてて書いています。「神様からゆだねられている羊たち—メエと鳴く動物の羊ではありません。信徒のことです—を神様のおつしやるとおりに導き養いなさい。えらそうにしないで、イエス様のようにへりくだって、みんなの模範になりなさい」と。そうすれば、大牧者イエス様が来られる時に、しばむことのない栄光の冠が与えられますから。私たちは、こんな尊い働きをしていてくださる先生方のためお祈りしましょう。

**いのちの祈り** 天のお父様、いつもお祈りして、み言葉を語ってくださる牧師先生方のためにもっとお祈りします。

9月3日(木)

聖書

I ペテロ 5・8～9

聖句

身を慎み、目をさましていなさい。

8節

「敵を愛し、迫害する者のために祈れ」(マタイ 5・44)とイエス様が言われました。私たちは敵になったり、私たちを迫害する人たちを、後ろから自由自在に動かしている張本人がいま、それが悪魔です。静かに物事を見つめて、お祈りしていると見破ることができます。目をさましているということはそういことです。獲物をあさっている悪魔の手先として使われないように！その悪魔にむかって、信仰にかたく立って「サタンよ、退け！」って撃退しましょう。

いのちの祈り

天のお父様、いつでもお祈りをして、悪魔のしわざだと見破ることができますように。信仰にかたく立てますように。

9月2日(水)

聖書

I ペテロ 5・6～7

聖句

だから、あなたがたは、神の力強い御手の下に、自らを低くしなさい。 6節

水が低い方へ低い方へ流れていくように、神様の祝福も、心のへりくだった人にどんどん注がれていくですね。ここでもまた「自らを低くしなさい」とあります。人が本心に謙遜になれる方法はただ一つ。神様の偉大さが見えて、自分の小ささがわかってきたときです。あなたもこれまで、「神様って偉大だ」と大自然を見て思いましたか？罪をおわびし、ゆるしてもらって、神様のきよさがよくわかりましたか？この神様の力強い御手を覚えましょう。

いのちの祈り

天のお父様、あなたの御手の力強さを知れば知るほど、自分のちっぽけさがわかってきます。ますますへりくだらせてください。

9月5日(土)

聖書

I テサロニケ 5・23～24

聖句

どうか、平和の神ご自身が、あなたがたを全くきよめて下さるように。 23節

これはパウロの伝道で生まれたテサロニケの教会の人々のために。パウロが書き送った手紙の中のパウロのお祈りです。私たちを全くきよめてくださるのは、平和の神様ご自身ですね。私たちの霊と心とからだを完全に守って、イエス様の前に、責められるところのない者にしてくださるのも、平和の神様ご自身ですね。そのようにしてくださいと召してくださいのも神様ご自身。そしてこの神様は「真実な方だからしてください。だから、何も心配いりません！」

いのちの祈り

天のお父様、あなたの真実な愛で私をきよめ、すべてを終わりまで完全に守ってくださる約束を、心より感謝します。

9月4日(金)

聖書

I ペテロ 5・10～11

聖句

しばらくの苦しみの後、あなたがたをいやし、強め、力づけ、不動のものと下さるであろう。 10節

あなたの家の周りとか、学校に大きな木が植わっていますか？今は大きな木も、はじめは小さな苗だったのですよね。その小さな苗に、太陽が照り、風が吹き、水が注がれ、時には大風大雨大雪もあつたでしょう。そのようにして、その苗は大地に深く、強く、たくましく根を張り、大木になったのですね！私たちの信仰の根も同じです。いろいろな苦しみや困難がおそってきても、恵みの神様がいやし、強め、力づけ、不動のものとしてください。

いのちの祈り

天のお父様、私のような小さな子どももイエス様によって永遠の栄光に招き入れてくださり感謝です。ゆるがない者にしてください。

9月10日(木)

聖書

使徒16・9～10

聖句

神がわたしたちをお招きになったのだと確信して、わたしたちは、ただちにマケドニヤに渡って行くことにした。 10節

なぜトロアスだったか、ここでわかりました。海に向こうのマケドニヤ人の叫びが幻によってパウロに届けられました。福音を彼らに伝えさせようと神様がパウロたちを招いてくださったと確信できました。そこでこの使徒行伝を書いたお医者さんのルカが加わっています。「私たち」となっているからです。不思議にも、以前行った町々ではなく、何と海を越えたヨーロッパへと、福音が届けられていくのです。神様のお導きは素晴らしい一言ですね。

祈り 天のお父様、私たちの人生の中にも、考えもつかないような素晴らしいご計画をあなたが持ちこたえておられました。

9月9日(水)

聖書

使徒16・6～8

聖句

アジアで御言を語ることが聖霊に禁じられたので、フルギヤ・ガラテヤ地方をとおって行った。 6節

聖霊なる神様はよくわかる方法で「ノー！これはちがいますよ」と教えてくださるのです。ある「夫妻が、「日曜日の朝、礼拝以外の所へ出かけようとしたら、急に突風が激しく吹いてきたので、あわてて教会の礼拝に行きました」というあかしをされていたのを思い出します。パウロたちは「アジアではありませんよ。」「ではビテニヤに」「いいえ、ビテニヤもちがいますよ」と御霊にとどめられました。そこでついにはムシヤを通して海岸の町トロアスに下りました。

祈り 天のお父様、今でもあなたは聖霊なる神様をおつかわしくなさって、導いてくださいます。従う心を与えてください。

9月12日(土)

聖書

ローマ10・14～17

聖句

の宣べ伝える者がいなくては、どうして聞くことがあろうか。 14節

あなたに教会のことや、イエス様のことを教えてくれた人はだれでしょう？ 生れる前から教会に行っていたお友だちもあるでしょう。なんて幸せでしょう！お友だちに誘われましたか？そのお友だちにはどんなに感謝しても足りないと思うようになりますよ。まだまだイエス様のことを聞いていない人が、私たちの周りにはたくさんいます。教会で特別な集会がある時とかクリスマスとかに案内を渡しましょう。毎週の日曜日にも、どんどんお誘いしましょう。

祈り 天のお父様、わたしが黙っていたら、あなたを知らない人々は滅んでいきます。お祈りして伝えさせてください。

9月11日(金)

聖書

箴言24・10～12

聖句

死地にひかれゆく者を助け出せ、滅びによりめきゆく者を救え。 11節

ある人が夢を見ました。聖霊によって見せられたのです。大きな川をたくさんの人々が流されていきます。その川の流れの行きつく所は滝つぼのようです。その川のまん中で一人の人が一生懸命、一人、一人とボートに引き上げています。よく見るとそれはイエス様ではありませんか。夢から覚めたその人は、罪の大川を流されて滅んでいく人々を、イエス様の救いにお導きするお手伝いをしなければと、献身して牧師になりました。私たちもお手伝いができますように。

祈り 天のお父様、救い主イエス様を信じなければ、だれでも永遠の滅びになります。イエス様をもつと伝えたいです。

# 9月13日(日)

聖書

使徒16・11～15

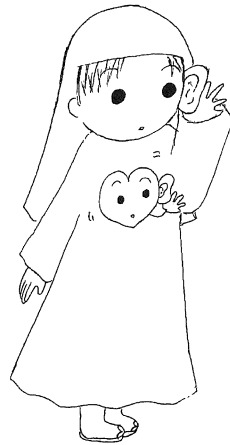
聖句

主は彼女の心を開いて、パウロの語ることに耳を傾けさせた。 14節

「もっと聖書のお話を聞きたいなア」、「もっとイエス様のことを知りたいなア」、「もっと神様の言葉を讀んだり聞いたりしたいなア」って、こういう気持ちになれるのは、実は神様がその人の心を開いてくださっているというところなのです。ここに登場するテアテラ市の紫布の商人で、神を敬うルデヤさんという婦人の心も、主にゆつて開かれて、パウロの話にじつと耳を傾けたのでした。そして信じて、家族そろってバプテスマを受けました。ハレルヤですね。

祈り

天のお父様、人の心は固くて閉ざされていますが、あなたがその心を開いてくださることを信じていきます。



聖書

使徒16・11～15

タイトル

ピリピの祈り場

暗唱聖句

主は彼女の心を開いて、パウロの語ることに耳を傾けさせた。

使徒16・14

目標

主が人々の心を開いてくださることを信じよう。

# 9月15日(火)

聖書

使徒16・14～15

聖句

「もし、わたしを主を信じる者とお思いでしたら、どうぞ、わたしの家に来て泊まって下さい」 15節

家族そろって洗礼を受けたなんて、とってもうらやましいですね。一気に恵まれたクリスチャン・ホームの誕生でした。そしてルデヤさんは、神様によってその心が開かれたと共に、ルデヤさんの家も、神様の尊いお働きのために開かれたのでした。まずはパウロたちをお招きして、家にお泊りました。この家がやがて、パウロの心に大きな喜びをいつも満たしてくれるピリピの教会となりました。パウロ一行を祈りと献げものでお支えたのです。

祈り

天のお父様、このような、恵まれたクリスチャン・ホームが次々と生まれて、あなたのみわざのために用いられますように。

# 9月14日(月)

聖書

使徒16・11～13

聖句

ある安息日に、わたしたちは町の門を出て、祈り場があると思って、川のほとりに行った。 13節

婦人たちっていうのは、よく井戸端会議と  
いうのをします。わかるかな？ 何人か寄り  
集まるとペチャクチャ、人のうわさ話をしたり、  
り、自慢話をしたりします。ところが、こ  
この婦人たちはちよっとちがっています。川  
のほとりに集まって、おしゃべりではなく、  
神様の前にお祈りをしていたのでした！ 一つ  
もはユダヤ人の会堂に行くパウロでしたが、  
その日は「川のほとりの祈り場」へ行ったの  
です。お祈りする所には、神様のお働きが  
おこるのです。

祈り

天のお父様、お家の人と祈るのもうれしいですが、お友だちとも一緒にお祈りができたらいいなと思います。



# 9月17日(木)

聖書

使徒10・34・48

聖句

ペテロはその人々に命じて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けさせた。 48節

「こんなにも大ぜいの人々がコルネリオと共に大きく心を開いて、ペテロの言葉を一言も聞きもらすまいと、待つていました。ペテロはどんなにかお話しやすかったことでしょう！イエスを信じる者はみな罪のゆるしが受けられるという預言者のあかしまで語っていくと、すぐさまみんなの人たちに聖霊がくだり、神様をさんびしました。ユダヤ人信者たちもビックリ！彼らはその場でバプテスマを受けさせてもらいました。全く神様のみわざでしたね。」

いのちの祈り

天のお父様、今でも固い心の人を見ると、イエスを信じられないかも、と思ってしまうのですが、あなたにはその心も開くことができると信じます。

# 9月16日(水)

聖書

使徒10・23～33

聖句

今わたしたちは、主があなたにお告げになったことを残らず伺おうとして、みな神のみにまかり出ているのです。 33節

「二にも、神様によって、その心が開かれた人々のことが記されています。ローマのイタリヤ隊と呼ばれた部隊の百人隊長さんのコルネリオさんです。神様はまた同じ時に、ペテロの心も用意されました。二人に幻をもつてハッキリと示して導かれました。ペテロは、ユダヤ人以外の人々（この人たちのことを異邦人といいます）が、福音の恵みにあずかれると納得しました。コルネリオと家中の人々が、どんなにか心開いてペテロを待つていたか、よくわかります。」

いのちの祈り

天のお父様、あなたのお心も大きくて広いことがよくわかりました。どんな人の心でも、あなたには開けると知ってうれしいです。

# 9月19日(土)

聖書

使徒11・22～26

聖句

こうして主に加わる人々が、大ぜいになった。 24節

アンテオケでイエス様を信じる人がたくさん起こされたというわさは、とつてもうれしいいわさでした。エルサレムの教会はバルナバをアンテオケにつかわしました。バルナバはそこに満ちている神の恵みに大いに喜んで、主に対する信仰を揺るがない心で持ちつづけるようにみんなを励ました。聖霊と信仰とに満ちた立派な人バルナバと共に主も働かれ、ますます大ぜいの人々が信じた。バルナバはタルソのサウロを連れて帰り共に、大ぜいの人を丸一年教えました。その人たちが初めてクリスチャンと呼ばれたのです。」

いのちの祈り

天のお父様、私たちも聖霊と信仰とに満ちたして下さって、あなたと共に人々の救いのために働かせてください。

# 9月18日(金)

聖書

使徒11・19～21

聖句

主のみ手が彼らと共にあったため、信じて主に帰依するものの数が多かった。 21節

悪魔がねたんで、迫害者を起こして、どんなにされても、大丈夫。神様はそれさえも「自身の栄光に変える」ことのできるお方なのです。ステパノの殉教という迫害で、人々はあちらこちらに散らされました。どんな所までかなと思う人は、聖書の後とかについている地図を見てください。アンテオケに行つて、クプロ人とクレネ人数人が、ギリシャ人にもイエス様のことを宣べ伝えたのです。主のみ手が働いて、人々の心が開かれて主を信じる人たちがどんどん起こされました。」

いのちの祈り

天のお父様、今も私たちがイエス様のことを伝えるところに、あなたの御手が共に働いてくださることを感謝します。

# 9月20日(日)

聖書  
聖句

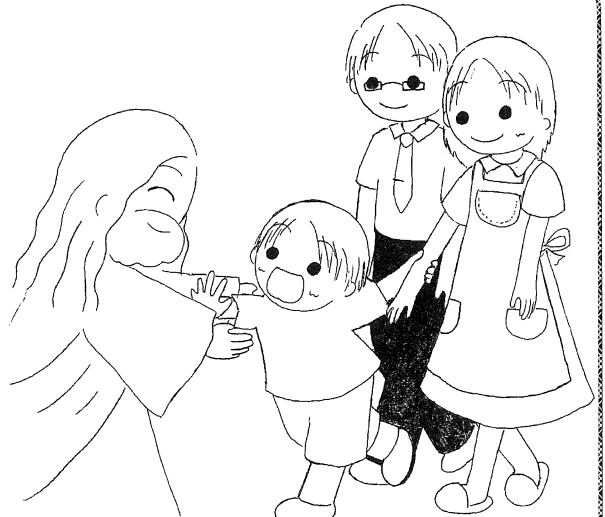
使徒16・16～34

主イエスを信じなさい。そうしたら、  
あなたもあなたの家族も救われます。

31節

私たちの神様は、あなたと共に、あなたの家族も救ってくださる神様です。聖書の中には「家族ぐるみの救いの記事がいっぱいあります。箱舟を造ったノアとその家族合計8人、ラハブとその家族の救い。ヨシヤとその家族が共に主に仕えました。また、先週学んだルデヤとその家族、そして今週学ぶ獄吏とその家族の救いがあります。よく知られているこの言葉、そして、多くのクリスチャンホームがこの言葉で生まれました。今日、あなたの家はどですか？

祈り 天のお父様、あなたの真実なお約束を感謝します。イエス様を心から信じ、家族も救ってくださると信じて祈ります。



聖書

使徒16・16～34

タイトル

真夜中の奇跡

暗唱聖句

主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。

使徒16・31

目標

主イエスを信じ、家族の救いを祈ろう。

# 9月22日(火)

聖書  
聖句

使徒16・19～24

ふたりに何度もむちを加えさせたのち、獄に入れ、獄吏にしっかり番をするようにと命じた。

23節

こうなると、今までお金もうけをしていた主人たちの商売はアガツタリ！パウロとシラスに対して怒りが燃えたのでしよう。二人を捕えて広場に引きずって行つて、長官たちの前で訴えました。「このユダヤ人たちは町をかき乱し、まちがった風習を宣伝している」と言うので、群衆も責めたてます。ついに長官たちは二人の上着をはぎ、むちで何度も打たせて、足かせをはめ、奥の獄屋に入れてしまいました。女奴隷を救ってあげたのに、どうして？

祈り 天のお父様、いいことをしても、ひどい目にあったパウロたちでした。これも神様がゆるされておこったのだと知ります。

# 9月21日(月)

聖書  
聖句

使徒16・16～18

イエス・キリストの名によって命じる。その女から出て行け。

18節

占いの霊につかれた女奴隷って、とても可哀そうですね。しかもその占いをして、主人たちにお金をもうけさせていたのです。金もうけの道具だったのです。この女の人がパウロたちのあとを追うかけは、「この人たちはいと高き神の僕たちで、あなたがたに救いの道を伝えるからだ」と何日も叫ぶのです。パウロは困ってしまい、主イエスの名によって命じると、占いの霊は女の人から出て行つてしまいました。パウロの内におられた聖霊の勝ち！

祈り 天のお父様、人を惑わすさまざまな霊があります。いつも聖霊に満たされて、惑わされないようお守りください。

9月24日(木)

聖書

使徒16・27・28

聖句

自害してはいけない。われわれは皆ひとり残らず、ここにいる。 28節

あわてたのは獄屋番の人でした！「獄の戸が全部開いている、ということとは、囚人たちはみんな逃げ出したにちがいない、私の命ももうおしまいだ」と思い、つるぎをぬいて自殺しかけたのです。するとそれを見て、パウロは大声をあげて言いました、「自害してはいけない。われわれは皆ひとり残らず、ここにいる」。囚人たちがだれ一人逃げなかったのも奇跡でした。暗闇の中で獄吏が自殺しかけているのを知って、大声で叫んだ。パウロの一声もまた奇跡的！

祈り 天のお父様、どんなことが起こっても、あなたを信じて祈っていくとき、正しい判断が与えられることを知ります。

9月23日(水)

聖書

使徒16・25～26

聖句

真夜中ごろ、パウロとシラスとは、神に祈り、さんびを歌いつづけたが、囚人たちは耳をすまして聞きいつていた。 25節

本当に望みも全く消えてしまったような真夜中の暗闇の中で、パウロとシラスはどうしたでしょう？ 神様に文句を言ったり、嘆いたりのお祈りをしたのではなかったようです。さんびを歌いつづけたとあります。囚人たちは、「え？ 一体このさんびは何？」と耳を澄まし、心を澄まして聞き入りました。すると突然！ 神様が二人の祈りとさんびにこたえるかのように、大地震が起りました。戸が全部開き、みんなの鎖が解けてしまうという奇跡がおこりました。

祈り 天のお父様、とても信じられないような奇跡です。パウロとシラスの信仰も奇跡のような信仰とおもえます。

9月26日(土)

聖書

使徒16・33～34

聖句

ふたりを自分の家に案内して食事のもてなしをし、神を信じる者となったことを、全家族と共に心から喜んだ。 34節

獄吏とその家族一同は、パウロとシラスから神の言を聞きました。獄吏は真夜中だったけれども、二人を引き取って、その打ち傷を洗ってあげました。二人は傷だらけだったのに、神様に祈り、さんびを歌いつづけたのでした！ そして、獄吏と家族とは、一人残らず、その場でバプテスマを受けました。二人が言った言葉のとおりのが起こったのでした。二人を家に案内し、食事のもてなしをし、クリスチャン・ホームとなったことを心から喜びました。

祈り 天のお父様、まさに真夜中の奇跡を見ました。真夜中のような状況の中であなたの奇跡を期待していきます。

9月25日(金)

聖書

使徒16・29～32

聖句

先生がた、わたしは救われるために、何をすべきでしょうか。 30節

パウロの力強い声を聞いた獄吏は、あわててあかりを取って、獄にかけ込んできました。ふえおののきながら、パウロとシラスの前にひれ伏してしまいました。それから、二人を外に連れ出して、「先生がた、わたしは救われるために、何をすべきでしょうか」とたずねます。あまりのできごとに、彼の魂が叫んでいたのですね。今も「何をすべきでしょうか」とたずねる人がいるでしょう。答えは、「主イエスを信じなさい」。ただ信じるだけなのです。

祈り 天のお父様、二人が獄に入れられたのもあなたのご計画でした。二人の信仰が見事に実を結んだのを見ました。

9月27日(日)

聖書

使徒18・1～11

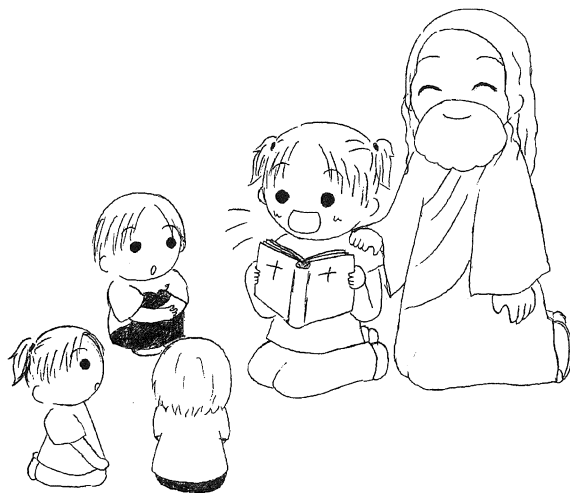
聖句

恐れるな。語りつづけよ、黙っているな。あなたには、わたしがついている。9、10節

どんな時に神様がこのみ言葉をパウロに語ってくださったのかは、今週一週間で学ぶことにしましょう。神様を知らないお友だちに、イエス様のことや、教会のことを話す時には、やっぱりドキドキしたり恐れを感じたり、もうやめよう、黙ってればいいやと思ったりするでしょう。でもそれでは何にもならないし、何も起こりません。だからイエス様が、きょうも私たちをこのみ言葉で励ましていくくださるのです。何と云うたてイエス様が共にいてくださいますから！

いのちの祈り

天のお父様、本当に伝道しようと思えば簡単なことではありません。でもあなたが共にいて力をくださるので励みます。



聖書

使徒18・1～11

タイトル

コリント伝道

暗唱聖句

恐れるな。語りつづけよ、黙っているな。あなたには、わたしがついている。使徒18・9～10

目

目標

共にいてくださる主を信じ、恐れなく伝道しよう。

9月29日(火)

聖書

使徒17・22～31

聖句

われわれは神のうちに生き、動き、存在しているからである。28節

アレオパゴスの評議所の真中に立つて、パウロは堂々と語りました。アテネの人の心にも届くようにと、知性に富んだ説教をしました。「知らない神に」と刻まれた祭壇をとりあげて、目に見えないまことの神様について一生けんめい語りました。「神様は遠くのお方ではない、われわれはこの神のうちに生き、動き、存在しているのだ」と。そして、もちろん、神様がつかわしてくださったひとり子イエス・キリストを、この神は死人の中からよみがえらされたことをも。

いのちの祈り

天のお父様、すべての人にはすべての人のようになれたパウロでした。私にも、その人に合った伝道の仕方を教えてください。

9月28日(月)

聖書

使徒17・16～21

聖句

パウロはアテネで彼らを待っている間に、市内に偶像がおびただしくあるのを見て、心に憤りを感じた。16節

コリントに行く前に、パウロはアテネを通りました。さて、アテネでのパウロの伝道はどうだったでしょうか？ テモテとシラスが来るのを待っている間のことです。何と、アテネは偶像だらけではありませんか！ 何ということだと、パウロの心は怒りさえ覚えたのでした。会堂ではユダヤ人と、広場では哲学者たちと、パウロは議論を戦わせました。それを聞いたある人たちが興味と好奇心の固まりで、何か耳新しい珍しい教えを知らせてくれと申し出てきました。

いのちの祈り

天のお父様、イエスと復活とを宣べ伝えていたパウロに伝道のチャンスが与えられました。私も伝道心に燃やしてください。

10月1日(木)

聖書

I コリント 2・1～5

聖句

わたしはイエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト以外のことは、あなたがたの間では何も知るまいと、決心したからである。 2節

「失敗は成功のもと」、アテネ宣教は、パウロにとって、とっても大切なキーポイントに目をひられる重要な経験となりました。「わたしがあなたがたの所に行った時には、弱くかつ恐れ、ひどく不安であった」(3)とあとでコリントの人たちに手紙を書いていきます。でもワカッター「私のメッセージは十字架につけられたイエス・キリスト、この方だけだ」とね。アテネでの苦い経験から、学習したのです。

いのちの祈り

天のお父様、失敗やがっかりすることがあっても、そこからあなたはとても大切なことを学ばせてくださり感謝です。

9月30日(水)

聖書

使徒 17・32～34

聖句

死人のよみがえりのことを聞くと、ある者たちはあざ笑い、またある者たちは、「この事については、いずれまた聞くことにする」と言った。 32節

「ぬかに釘」、「とうふにかすがい」、「のれんに腕押し」なんて言葉、聞いたことがありませんか？これは日本式だけどパウロが心燃やして語ったのに、アテネの人たちの反応は、あざけり、あざ笑い、無関心だったのです。さすがのパウロの心もちぎれてしまいました。これまでの迫害や暴動の方がよほどパウロの心をますます伝道へとかき立てたのでした。パウロにとっては新しい経験、でも大切な経験となりました。

いのちの祈り

天のお父様、伝道をしていくと、いろいろながっかりするようなできごとがあることを知らされました。

10月3日(土)

聖書

使徒 18・5～11

聖句

パウロは御言を伝えることに専念し、イエスがキリストであることを、ユダヤ人たちに力強くあかしした。 5節

さらに心強い同労者シリウスとテモテがパウロのもとに帰ってきてくれたので、パウロはひとすらすら言葉を伝えることができました。「イエスがキリストであること」を力強くあかししたのです。ここではまたユダヤ人たちの反抗とのしりがありました。そんなことには慣れていたたくましいパウロでした。クリスポ一家や多くのコリント人が主を信じてバプテスマを受けました。力強い幻とお言葉を受けて、一年半、そこで働き、コリントの教会が誕生しました。

いのちの祈り

天のお父様、苦しいことやいやなことがあってもあなたはご存知で、励ましてくださいますから本当に感謝です。

10月2日(金)

聖書

使徒 18・1～4

聖句

そこで、アクラというポイント生れのユダヤ人と、その妻プリスキラとに出会った。 2節

私たちの神様は、本当に慰めの神様です。心を痛め、がっかりきて、もともと小柄な身もちぢみ、心もちぢむような思いで、パウロはコリントにやってきました。コリントの町もアテネとあまり変らないなあと思いつつ、でも、心の内は、「十字架につけられたキリストだ」と決意しながら。そこでアクラとプリスキラという同じ天幕造りを職業とする夫婦に出会いました。彼は職業だけでなく信仰においても素晴らしい同労者になりました。

いのちの祈り

天のお父様、あなたは本当に慰めと励ましの神様です。どんな時にも、あなたを見上げて前進させてください。